

2019年 平和首長会議 青少年「平和と交流」支援事業に参加して

白川 啓明（京都府京都市）

今回、HIROSHIMA and PEACE 及び平和首長会議のプログラムに参加して終始大きく分けて2つのことを感じました。1つは、草の根的、ボトムアップ式の政策の重要性であります。国際関係学においては、リアリズムの観点から「国」と「国」の間における安全保障が重視され、NGO や企業などの存在が自分視点からでは見えにくいものでありました。核軍縮においても、国際的な取り決めが漸進的に進められては来たものの、やはり国家は自己防衛が原則であることに加えて、新たな核保有国の登場などで益々限界を迎えてきているように感じていました。しかしながら、平和首長会議の存在や ICAN の活動を知って、逆にこのような時代だからこそ、政府が対応できないきめ細やかな活動が大きな意義を持つことを学びました。中でも、印象に残っているのは広島市長のお言葉です。市長は平和首長会議の意義について「外交や政府同士の問題で限界を迎えたのなら、レベルを一つ下げてやればいい。市同士の繋がりを強くして、私達がしっかりと自分たちの意思を持った上で、選挙に臨めば、政府は私達を無視することは出来ない。そのような状況が世界中で起これば、今まで成し得なかった一歩が踏み出せるのではないか。」私はこの言葉に非常に草の根活動の意義が詰め込まれているように感じました。この考えは様々なことに応用できるように思います。私はこの HIROSHIMA and PEACE を参加し終えた後に、日韓交流プログラムに参加する予定でしたが、現在も続く緊張関係により中止となってしまいました。外交関係の問題が私達の生活のレベルにも影響を与え始めているように思いました。その時に逆に、私達が下から活動を行えば、現状を変えられるのではないかという可能性を感じました。

その一方で、もう一つ強く感じてたことは、広島県民が非常に平和に対して良くも悪くも従順であるように見受けられたことです。もちろん、世界における広島の平和的な意義は重要です。そして、広島市立大学の生徒や広島県民の人の様子を見てても程度は違えど、平和を希求しているように思えました。しかしながら、平和への理解については些か情緒的なものを感じました。広島で出会った学生、電車では出会った人々に「どうして平和って大切なんですか?」「平和ってなんですか」と聞いても「平和は大切でしょ」「平和は平和」というような答えが返ってきたのみでした。私見ではありますが、平和は抱きかかえるものではなく、絶えず掴み離さない不断の努力によって得るものだと考えています。HIROSHIMA and PEACE において何回か被爆者体験についてのお話を頂ける機会がありました。そこでの他の受講生の様子を見ていても、被爆者の気持ちを一方的に受け止めたり、どこか腫れ物に触るかのように話すという受動的な態度が散見されました。戦争体験はもちろん被爆者による証言というのは年々貴重なものとなっています。その中で、私達は「二度と同じ過ちを繰り返さない」ために、次の世代や戦争に対して知識が不足している人々にまで普及させる「責務」があります。その際に果たして戦争被爆者の言葉を絶対的に正しいと見なし、抱きかかえるのは果たして「理解」していると言えるのでしょうか。

最後になりますが、平和首長会議、HIROSHIMA and PEACE の大きな意義は様々な国の生徒からの、そのバックボーンを背負った意見が飛び交うことにあると思います。そのような繋がりが平和構築の一助になると私は考えています。

その中で平和首長会議における活動の展望としましては、この「繋がり」を中心に据

えた上で、広島における被爆者による証言だけでなく、他の都市における戦争体験の証言などを併せて聞けると、原爆の悲惨さだけでなく、「戦争」の悲惨さを重層的に認識できると思います。故に私は、平和首長会議加盟都市における戦争体験の共有を提案します。具体的には、先述の通り、様々な角度からの戦争体験に加えて、広島市や核問題に関心がある人に、加盟都市間における留学を提案します。現在、平和首長会議のプログラムで、加盟都市から広島に来て勉強してもらおうプログラムは存在していると思いますが、その逆はあまり見られていないと思います。軍事や歴史をより重層的に勉強すればするほど、広島の重要性も再認識できると思います。

今後の当面の私の活動につきましては、大学内において自分が広島で学ばせて頂いたことを共有したいと思います。普段の授業内はもちろん、来たる 11 月には学部内において学部生における研究発表があるので、そこで平和首長会議や ICAN といった政府間交渉以外の活動を紹介させていただきます。その他にも、自分が普段アルバイトで教えている塾の授業であったり、立命館大学の付属高校である立命館宇治高校における授業でも広島で学んだことをベースに授業させて頂く予定です。

プログラムに参加させていただいてから、未だ 2 ヶ月しか経っていませんが、今の時点でも、HIROSHIMA and PEACE で学んだことは自分の学びに大きく反映されています。これからもこのプログラムができるだけ存続し続けることを祈っています。ありがとうございました。